

《シリーズ 図書館とボランティア 2》 ボランティア10周年記念講演「人が変わる・まちが変わる」(要約)

平成17年6月1日、附属図書館ボランティア10周年記念式典が筑波大学大学会館で行われ、式典の後、伊万里市民図書館長 犬塚まゆみ 氏を講師として記念講演会が開催された。以下はその概要である。

【1 図書館はつくるプロセスが大事】

伊万里市民図書館の開館への発端は市民による図書館づくりの熱意だった。市民の声をどれだけ反映させるかということの主眼に、行政サイドの理解を得て、市民と行政との協働による図書館づくりの過程を経て開館にこぎつけることができ、平成7年7月に開館し、今年で10周年をむかえる。

図書館や文化は出来上がったものも大切であるが、それ以上に図書館づくりを進めるプロセスとそれに伴う学習が重要である。伊万里市での図書館づくり運動は、市民による「図書館を学ぶ会」として始まり、「図書館づくりを進める会」に改組され、そのなかで、他都市の先進事例の見学会、外部講師を招いての図書館サービスのあり方の勉強会、等様々なことを学びながら、図書館開館を迎えた。「図書館づくりを進める会」は開館後、「図書館フレンズ伊万里」に改組され、図書館運営に対して協力や提言を行っている。



【2 伊万里市民図書館のボランティア活動】

伊万里市民図書館のボランティア活動は、「図書館フレンズ伊万里」が図書館の応援団のような存在として活動しているほか、以下の活動を行っている。

- 1) おはなしキャラバン 保育園や老人施設等へ出向いての出前の対面朗読
- 2) 朗読ボランティア 視覚障害者等への朗読サービス
- 3) 読み語り21 小学校での子供に対する読み聞かせ
- 4) 布絵本の会 布を使った絵本を作成し、子供が触れることで体験できるよう、図書館内に常設展示している
- 5) 点訳 視覚障害者のために書物を点字に訳すボランティア活動
- 6) 三〇(さんわ)会 伊万里の方言保存のため、伊万里地域に伝わる昔話を収集し、書物を出版したり、イベント等で語り部をつとめたりする
- 7) いすの木合唱団 美しい日本語を伝えていくことを目的にした、日本の歌の合唱会の活動
- 8) ブックスター 子育て経験者による3か月検診時の活動
- 9) ライオンズクラブによる月1回の草刈り

「図書館フレンズ伊万里」は会員からの年会費1000円のみで運営されており、公的な補助は一切なされていない。このため、重複の寄贈本等をもとにした古本市を図書館の一角で行うことにより、各グループの活動費

の不足をおぎなっている。

【3 図書館ボランティアと街づくり】

①図書館とボランティア

図書館とボランティアの関係は、図書館員が少ないからその補完をするということにあるのではなく、ボランティア活動は図書館の活動に対して付加価値を与えるものと位置づけている。図書館員の仕事とボランティアの活動との明確な切り分けが必要である。このことから、ボランティアに図書館本来の仕事を行ってもらうことはしない。図書館は図書館員の専門性の向上に尽力し、図書館としてのサービス・機能を十分に整えた上でボランティアとの関わりを持つことが重要である。

②街づくり

街づくりにおいて、企業誘致やイベント活動もそれなりの意味はあると思われるが、ともすれば一過的となりがちで、学習活動を伴った地域活性化の営みが持続的に地域の知的活動水準を高めていくと言える。この意味で、図書館ボランティアの活動は街づくりの種をまき、成長を促している活動である。

③文化縁

現在、地域における地縁や血縁は希薄になりつつあると思われる。これからは、文化（活動）によって人と人が結びつく「文化縁」というものが大きな意義を持ってくるのではないか。この意味で、図書館ボランティアは「文化縁」で結ばれた活動といえる。

④図書館伊万里塾

図書館伊万里塾は、開館前の学習活動として行われていたものであるが、今年は、開館10周年を記念して再開を予定している。第1回目は、本年7月に、図書館に対する深い理解を持ち「図書館先進県日本一」を掲げる古川佐賀県知事を招いた講演会を行うこととなっている。

⑤ボランティアと図書館の協働

ボランティアと図書館の協働のために重要なことは、図書館員の前例にとられない対応と自己改革にあると考える。これなくして円滑な協働は求められない。図書館は、ボランティアとの意思疎通をはかり、活動しやすい環境づくりにつとめていく必要があると言える。

（文責・情報管理課長 菅原英一）

[<<前の記事へ](#) | [目次へ](#) | [次の記事へ>>](#)

(C)筑波大学附属図書館